

大学生のイラショナルキャリアビリーフと就職活動との関連 [全文の要約]

著者	森本 康太郎
発行年	2022-03-31
学位授与機関	関西大学
学位授与番号	34416甲第873号
URL	http://doi.org/10.32286/00027784

2022年3月期 関西大学審査学位請求論文

大学生のイラショナルキャリアビリーフと就職活動との関連

関西大学大学院心理学研究科心理学専攻

16D8507 森本 康太郎

要 約

本論文は、日本の大学生が持つキャリアに関するイラショナルビリーフが、就職活動や職業決定においてどのような働きや機能を持つのかについて検討することを目的とした。

第1章では、わが国の大学生の就職活動や職業決定における課題について概観した。青年期における最大のライフイベントとも呼べる就職活動は、心身に大きな負担を与えることから、できるだけ円滑に就職活動を進められるような支援の必要性を指摘した。次に、これまでの進路選択研究における認知的変数の位置づけ、カウンセリングにおける認知的アプローチの有効性を踏まえた上で、円滑な就職活動や職業決定を妨げる直接間接の原因がキャリアについてのイラショナルビリーフの持ち方にあることと、キャリアにおける諸問題の解決や改善に向けてイラショナルビリーフに焦点を置いた支援が検討できることを指摘した。そして、キャリア支援においてビリーフの概念を扱う利点として、ビリーフは修正可能な認知的変数である点、認知行動療法の源流の一つにあげられる **Rational Emotive Behavior Therapy** の方法論を参照できる点、ビリーフへのアプローチはセルフヘルプに適している点と感情的問題への対応も視野に入る点、**Krumboltz** の提唱以降 30 年にわたるキャリアビリーフに関する研究蓄積を参照できる点、を上げた。

第2章では、大学生のキャリア支援の実践現場でビリーフを取り上げ、これに焦点を置いた支援を行う上で検討すべき課題として、日本におけるキャリアに関するビリーフの研究蓄積が少ないことと、キャリアについてのイラショナルビリーフを測定できる有用な指標を整備する必要があることを指摘した。このことより、本論文の主たる課題を、日本の大学生が持つキャリアに関するイラショナルビリーフが、就職活動や職業決定においてどのような働きや機能を持つのかについて、その心理的過程（メカニズム）を明らかにしようとする事として示した。次に、この課題を検討するための目的として、主に海外で行われてきた今までのキャリアビリーフ研究で何が明らかにされてきたのかを概観し、ビリーフを取り上げることの意義やポテンシャル、課題点を確認すること、我が国の大学生が就職活動や職業決定に対して抱くイラショナルキャリアビリーフの尺度を作成すること、イラショナルキャリアビリーフがどのような性質を持つのかについて検討すること、大学生の就職活動や職業決定におけるイラショナルキャリアビリーフの役割について検討すること、の4点を示した。

第3章では、キャリア関連領域におけるビリーフ研究の蓄積を概観した。**Krumboltz** によ

る Career Beliefs Inventory (CBI) の発表以来、世界各国で蓄積されてきた先行研究は、キャリアビリーフがキャリア未決定、キャリア成熟を予測する変数であることを明らかにしてきた。一方で、ビリーフが就職活動や職業決定に対してどのような影響を及ぼすのか、あるいはビリーフの役割や機能についての研究が行われる余地があることを指摘した。また、キャリアビリーフを測定する尺度についての課題を検討した上で、研究1では、CBIの日本語版の作成を試み、キャリアについてのビリーフを測定する尺度の課題を確認した。具体的には、先行研究が指摘する CBI の内的整合性および再検査信頼性の課題をあらためて明らかにし、キャリアビリーフを測定するための尺度の課題として、尺度の信頼性と妥当性の検討が求められる点、キャリアビリーフの概念をイラショナルナリティの観点から再整理する必要がある点、項目数や下位尺度数など尺度の実用性を考慮した尺度作成が必要である点を示した。

第4章では、大学生の就職活動、職業決定、キャリア発達の妨げとなるイラショナルキャリアビリーフを測定する日本語の尺度作成を行った。研究2では、関連する既存尺度の項目収集と概念的分類を行い、研究3では、大学生を対象として実施したインタビューから得られたデータの質的分析を行った。これらの結果よりイラショナルキャリアビリーフの構成概念を検討した。その後、研究4では、予備調査より得られた結果に基づき、24項目、4因子で構成される学生用イラショナルキャリアビリーフ尺度を作成した。具体的には「非現実的な楽観」、「自己に対する無力感」、「社会的評価へのとらわれ」、「理想追求の就職観」という4つのビリーフから構成され、尺度が一定の信頼性と妥当性を備えていることを示した。

また、研究5では、イラショナルキャリアビリーフの各下位尺度の基礎的特徴を明らかにするため、進路選択に関連する基礎的で主要な変数として進路選択に対する自己効力、職業的不安ならびにキャリア成熟、大学生を対象とする上で考慮すべき変数として大学生生活充実度を取り上げ、イラショナルキャリアビリーフとこれらの変数との関連をそれぞれ検討した。非現実的な楽観については、自信ないし過信という側面が、就職活動や職業決定についての遂行可能感と関連を持つ一方で、職業の中身について情報を収集して深く検討することの不足や、自力による挑戦というより運や環境任せという側面を表していることが示唆された。自己に対する無力感については、自分に対する自信のなさ、自己卑下の意識や悲観的な見通しと活動性および積極性が相反していること、自分は望むような進路就職を実現できないというビリーフと、自分は何にも向いていない、仕事をこなす力がない、就職してもうまくいかないという一連の不安とのつながりが理解された。また、自己に対する無力感が強いと前に進んでいくための道標を見失うために、大学生活への不適応を生じることでも示唆された。社会的評価へのとらわれについては、「成功」を、職業興味や適性ではなく、知名度などの対外的な見え方として捉えているために、志望先をネームバリューだけに基づき、中身を吟味して自分の適職を選べていないという不安と関連していることが示された。理想追求の就職観については、完璧主義的な考えを持つことと、不安や緊張を強く持つ傾向が関連を持つことが示唆された。

第5章では、イラショナルキャリアビリーフが、就職活動に対してどのような影響を及ぼすかについて検討した。研究6では、就職活動ストレスへの影響について、進路選択に対する自己効力の有無による仮説モデルの比較検討を行い、就職活動におけるイラショナルキャリアビリーフのネガティブな影響に関するデータの蓄積を図った。研究7では、イラショナルキャリアビリーフの尺度得点をタイプ分けし、各タイプにおける職業的不安、職業未決定、キャリア成熟の様相の検討、ならびに各タイプにおけるビリーフの影響の違いについての検討を行った。その結果、イラショナルキャリアビリーフの持ち方として、ラショナル型、楽観型、無力感型の3つのタイプがあり、このタイプには、非現実的な楽観と自己に対する無力感の2つのビリーフが大きく関わっていることも示された。加えて、それぞれのタイプにおける、ビリーフの職業的不安、職業未決定、キャリア成熟への作用も示された。

第6章においては、全体的考察として、先行研究の知見と同様に、ビリーフがキャリア発達に関連する指標と有意な関連を持つ、注目すべき概念として位置づけられるという結論を得た。具体的には、実用可能なイラショナルキャリアビリーフ尺度を作成できた点、ビリーフの持つ基礎的特徴や、大学生の就職活動に与える影響について示した点が上げられる。一方で、本論文の限界として、望ましい就職活動のあり方を含めて、実際の就職活動における行動そのものへの影響についての検討必要性など、今後の展望についても論じた。